

◎「横須賀市立高等学校の在り方について（答申）」において示された方向性に関する報告について

1 経緯

横須賀総合高校は、平成15年4月の開校後、これまで総合学科の高校としての特徴を生かし、キャリア教育を重視した指導の充実、国際交流の機会の充実、情報教育の充実等を軸とした教育活動の充実を進めてきました。

これまでの横須賀総合高校の教育を振り返り、さらなる教育の充実を図るため、横須賀市立高校の在り方について幅広い観点から検討することを目的とし、平成25年度および26年度には、「横須賀市立高等学校教育改革検討委員会（以下「検討委員会」という。）が設置され、平成25年7月に横須賀市教育委員会から諮問が行われました。

2年間の計8回にわたる検討委員会による審議を経て、平成26年8月に「横須賀市立高等学校の在り方について（答申）」が検討委員会から横須賀市教育委員会に提出されました。

答申を受け、横須賀総合高校では、質の高い中等教育を具現し、特色ある学校教育の充実を図るとともに、横須賀市教育振興基本計画（第3期実施計画）における事業「横須賀総合高等学校教育改革検討ワーキングチーム会議」（令和2年度から「横須賀総合高等学校教育改革推進会議」に改称）を開催し、横須賀総合高校と教育委員会が一体となり、答申で示された内容に対する検討を進めてきました。

2 報告の概要

今回の報告（別冊）は、答申で示された内容に対するこれまでの実施状況や取り組み状況等についてまとめ、報告するものです。

特に「長期的に取り組むこと（5年以上）」については、今後の方向性も併せて示し、令和4年度からの新たな「教育振興基本計画」のもと、引き続き横須賀唯一の市立高校として、横須賀総合高校の特色ある魅力的な教育の推進を図ることとします。